

## 中学生が自衛隊職場体験で「自分の生き方」を学ぶ



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、1月30日（火）と31日（水）の2日間、浜松市立可美中学校の2年生15人の「職場体験学習」を支援した。

同学習は、さまざまな職場を見学することで働くことの意義や厳しさを理解するとともに、社会人とのふれあいを通して仕事に対する価値観や人生観などを学び、自分のこれからの「生き方」について考えることを目的に行われた。

1日目は陸上自衛隊豊川駐屯地（愛知県豊川市）、2日目は航空自衛隊静岡基地（焼津市）で職場体験学習を実施した。

2日間とも天候に恵まれ、初日は豊川駐屯地において駐屯地の概要や陸上自衛隊の任務・役割について説明を受けた。その後、隊員の指導によるロープワークを体験し、生徒は慣れないロープの扱いに頭を悩ませながら奮闘していた。

2日目の静岡基地においては、基地の概要説明を聞いた後、基地に所在する各部隊を見学した。消防小隊で実際に使用する防火服や消防服の試着体験を行ったほか、整備隊ではT-7初等練習機の操縦席に実際に座り、またパイロットが訓練で使用している「T-7シミュレータ」の模擬飛行を体験するなど、パイロット気分を味わった。

参加した生徒からは「実際に働く隊員の方から直接話を聞くことができ、自衛隊のイメージが変わった」「航空自衛隊にパイロット以外にも多くの職種があり驚いた」などさまざまな感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような自衛隊を体験する機会を通じて学生たちにこの職業の魅力を紹介し、職業選択の一つとして自衛隊を考えてもらえるような広報に努めていく。

## 高校1年生が陸海空自衛官へ職業インタビュー



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）袋井地域事務所は、2月6日（火）、同事務所（袋井市）において静岡県立横須賀高等学校（掛川市）の生徒による「職業インタビュー」を受けた。

これは同校1年生が行う授業の一環で、生徒がそれぞれ興味を持っている職場を訪れてそこで働いている大人にインタビューを行い、知識や理解を深める目的で実施された。この度、同校の加藤結人君が自衛隊に興味があるということで、袋井所を訪れた。

当日は、所長の湯浅幸典2等空尉、副所長の渡辺義之陸曹長、広報官の佐々木毅2等海曹の3人が、それぞれ陸・海・空自衛隊についてインタビューを受けた。

最初に広報官から自衛隊の任務や活動について説明を行い、その後「なぜ自衛隊に入ろうと思ったのか」「自衛官の仕事の1日の流れについて」「自衛官になって良かったこと」などの質問に、各自自衛官が自らの勤務経験などを織り交ぜながら回答した。

真剣な面持ちでインタビューを行った加藤君は、終了後「自衛隊についてあまり知識がなかったが、勤務の内容や航空機のスクランブル発進の回数などを具体的に教えてもらい、とても勉強になった。更に自衛隊への関心が高まった」と感想を話していた。

静岡地本は、今後も県内の各学校と積極的に交流し、自衛隊に対する認識と理解の向上に努め、若者が描く未来の夢や可能性の拡大結実に貢献していく。